

仲町小 学校だより



メールアドレスe-mail : nakacho-e@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス <http://nakacho-e.saitama-city.ed.jp/>

勢衝青天

校長 河野 秀 樹



明けましておめでとうございます。

今年の元日の新聞各社の社説に目を向けると、「紛争多発の時代に 暴力許さぬ関心と関与を」(朝日新聞)「二つの戦争と世界 人類の危機克服に英知を」(毎日新聞)「磁力と発信力を向上させたい 平和、自由、人道で新時代開け」(読売新聞)、一面には政治などの不安なニュースが見受けられました。しかし、その中でも「藤井竜王みなぎる将力 八冠防衛戦『良い状態で』」などの明るい記事も見つけることができました。

今、6年生とは校長室で毎回7人程度の会食をしています。全30回の丁度半分の15回が終了しました。食事を楽しむ中で将来の夢について話題にすることがあります。例えば、「医者」「宇宙関係の仕事」などの職業を教えてくれる子もいれば、「人の役に立つような人になりたい」という子もいました。しかし、その話題になると悩んで言葉に詰まるような子もいます。

令和6年7月3日から新紙幣が発行されます。その新1万円札の顔になるのが埼玉県の大偉人の一人、渋沢栄一です。栄一は、若い時から詩作を楽しみにしていました。1858年10月に栄一は、従兄の尾高淳忠と共に信州佐久方面に家業の藍玉商いの旅に出ました。二人は秋の日の道中、詩文を詠み合い、後に「巡信紀詩」として一冊の書にまとめました。10月8日、紅葉の映える内山峡に臨み、次のような漢詩を作ります。

「…勢衝青天攬臂躋 氣穿白雲唾手征 日亭未牌遠絶頂 四望風色十分晴 遠近細辨濃与淡 幾青幾紅更渺茫 始知壯觀存奇嶮 探尽真趣游子行 恍惚此時覺有得 慨然拍掌歎一声 君不見遁世清心士 吐氣吞露求蓬瀛 又不見岌々名利客 朝奔暮走趁浮榮 不識中間存大道 徒將一隅誤終生 大道由来随处在 天下万事成於誠…」
『内山峡之詩』の一節より

訳すと、「…腕をまくって、青空を突き破るほどの勢いで山を登り 手に唾をつけて、空に浮かぶ白い雲を突き抜けるほどの強い精神力で前進します 太陽がまだ高いうちに頂上に着くと 四方の景色が一望できるほど晴れあがっていました 遠くや近くの景色を細かく見ていくと、濃淡の緑の木々と紅葉した木々が共生しています ようやくこの素晴らしい景色の見える険しい渓谷に私はいることがわかりました 私はその魅力を心ゆくまで堪能しました しばしうっとりしたあと 私は手をたたき、ああとため息をつきました 見てごらんさい、一方では、世を捨てた心清き人が息をし、しずくを飲んで、清い生活を求めています 他方を見てごらんさい、栄光や営利を求めて汲々としている人々が 朝から晩まで世俗的な儂い名誉を求めて奔走しています これらの行為の間に、人として行う正しい道理があることを知らずに 了見の狭い考えにより、人生を誤ることがあります 正しい道理はいたるところにあるのです 世の中のことはすべて誠実が基本です…」となります。

この一節から、NHK大河ドラマのタイトル「青天を衝け」が生まれたそうです。19歳という若さで美しい景色を見ながら、頭に浮かぶ思いをこのような漢詩で表現する能力、逆境にも負けずとばかりの勢いで岩山を進む姿、「どんなに苦しくてもやってやるぞ」というエネルギーな思いには圧倒されます。この気概が、生涯約500もの企業の設立や育成、600以上の社会福祉事業や教育に関わることにつながったのでしょう。長野県佐久市の国道254号沿いの岸壁にあるこの詩碑を見に行きましたが、残念ながら崩落の危険があるということで間近で見ることができませんでした。

今年は辰年です。子どもたちが栄一のように「今年はこんなことに頑張るぞ」という強い意気込みと計画を立てることができれば、辛いことがあっても竜のごとくたくましく目標をやり遂げることができるのではないのでしょうか。「一年の計は元旦にあり」仲町小の子どもたちにとって、今年も良い年であることを願っています。